

楽園サモアの快適生活



7月17日(水)飾磨高等学校で国際理解出前講座を実施し、1年生240名が参加しました。講師はJICA海外協力隊としてサモアに派遣された鈴木俊章さんです。

前半は、サモアの紹介です。経済的には開発途上国ですが、豊かな自然と温暖な気候に恵まれています。気温は、年間を通して25℃程度と一定で、マンゴーやバナナなどの果物がいたるところになっていて、好きなだけ食べていいそうです。また家族の絆も強く、平和で治安のよい国です。衣食住の工夫や自然と調和したライフスタイルなど、クイズなどを交えてお話しされました。意外な答えに、生徒たちからはどよめきが起こりました。

後半は、ご自身の協力隊としての活動についてです。サモア国立大学看護健康科学部で科学教育(実験)担当として、微生物学、生理学、薬学、解剖学の実験手法を指導されました。実験の意義や学ぶことの大切さを伝えるとともに、サモアの人々からも、西洋医学では治せない病気の治療法など多くのことを学んだそうです。



サモアの学生は、誰かを助けたい、人の役に立ちたいという気持ちを強く持って、熱心に勉強しているそうです。「ではみなさんは、なぜ勉強するのですか？」との声掛けに、生徒たちはなかなかはっきりと答えられない様子でした。また、若いうちにぜひ海外に行って様々なことを吸収し、自分の世界を広げてほしいと、国の留学支援制度についても紹介していただきました。

最後に、サモアの古墳についてお話がありました。実は飾磨高校の敷地内には古墳があり、サモアにある古墳とよく似た形をしているそうです。同じ時代に作られたことが証明されると歴史的な大発見になるかもしれません。生徒たちにとってはいつも見ている景色が、いつもとは違って見えたようです。



←御旅山九号墳(飾磨高校内)